

アクティブシニアを対象としたMM 荒尾市モビリティマネジメント

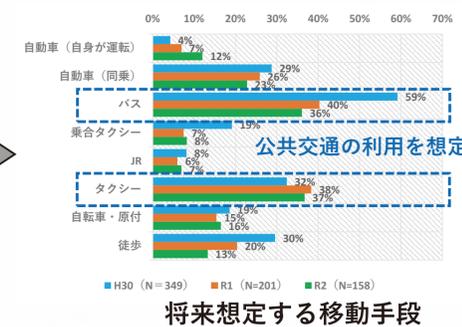
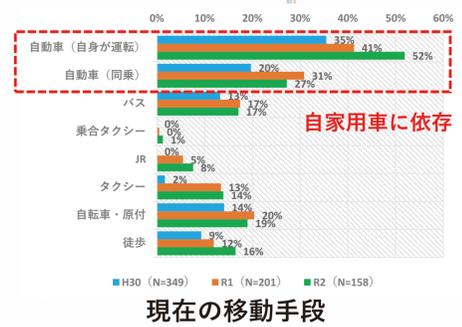
3年間 継続の 秘訣



STEP 1 事業説明・事前調査

H30:349/355 (98%) R1:201/216 (93%) R2:158/168 (94%)

体操教室会場などの位置 (H30:水色、R1:橙色、R2:黄緑色)



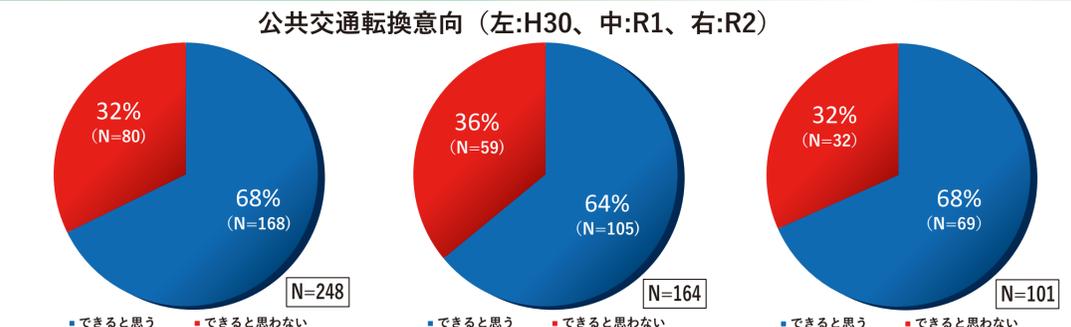
アクティブシニア (H30:355名、R1:216名、R2:168名) を対象とし、体操教室会場 (H30:28ヶ所、R1:21ヶ所、R2:14ヶ所) などを訪問しました。参加者の行動パターンや公共交通のイメージ確認のため、事前調査を実施しただけでなく、R2.10より本格運行中のおもいやタクシー (相乗りタクシー) のPRも同時に実施しました。

STEP 2 利用促進

会場を再訪問、利用促進ツールを手渡し、運営者も協力

STEP 3 転換目標調査×バス利用体験

H30:261/349 (74%) R1:165/201 (82%) R2:106/158 (67%)



お試し無料乗車券

荒尾市内産交バス No.

おとし乗車券

乗車 バス停

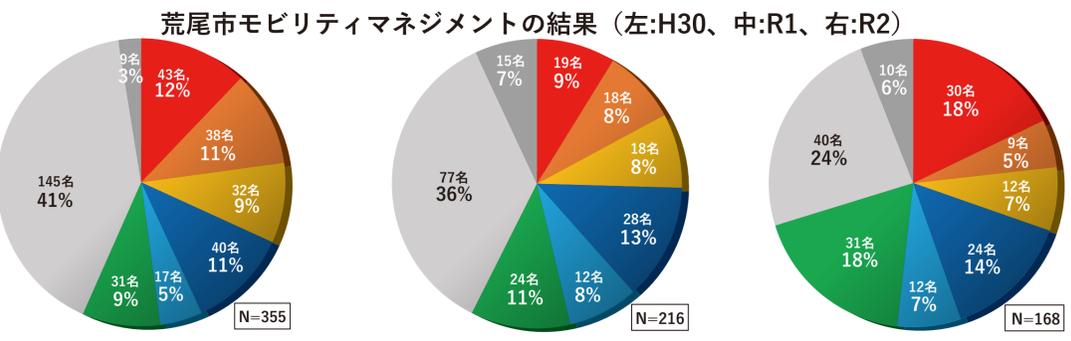
降車 バス停

※乗車前に乗降されるバス停名をご記入ください
 ※産交バスの荒尾市内でのご利用に限り、無料となります
 ※バスを降りる際に整理券とともに運転手にお渡しください
 有効期限 2020年11月6日～2020年12月31日
 発行元: 荒尾市 総務部 総合政策課 TEL 0968-63-1273

回答者の7割弱が公共交通への転換が可能というように前向きな回答を得ることができました。また、お試し乗車券を利用した買い物ツアーも主催者側で企画し、約2か月で275枚 (H30)、148枚 (R1)、103枚 (R2) の利用を確認しました。

STEP 4 事後調査①

H30:201/349 (57%) R1:124/201 (62%) R2:106/156 (68%)

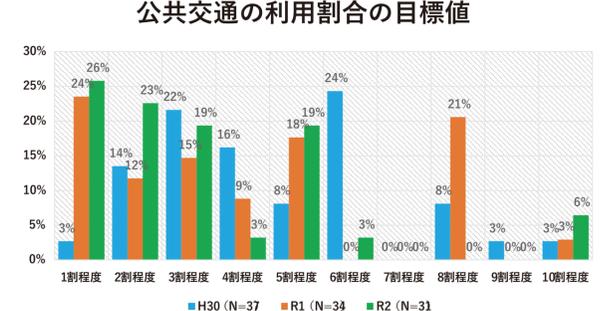
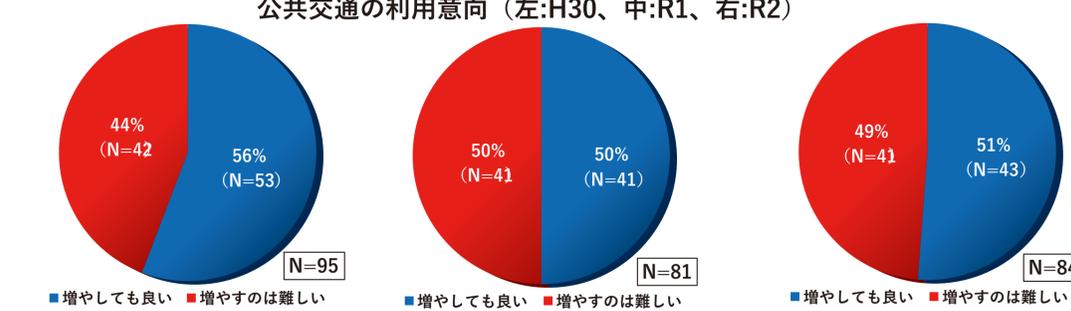


- 以前から公共交通を利用している
- 利用促進後、公共交通を利用した
- 利用促進後、公共交通を利用していないが、今後利用したい
- 利用促進後、公共交通を利用していない。今後利用したいと思わない。
- 利用促進後、公共交通を利用していない (今後の利用は無回答)
- 無回答 (事後調査票返信あり)
- 事後調査票返信なし
- 非対象者 (事後調査票送信不可)

これまで公共交通を利用していなかった38名 (H30)、18名 (R1)、9名 (R2) が新たに利用しました！新型コロナウイルス感染症の感染拡大影響もあり、R2年度は過去2年に比べ若干減少しました。

STEP 5 フィードバック調査

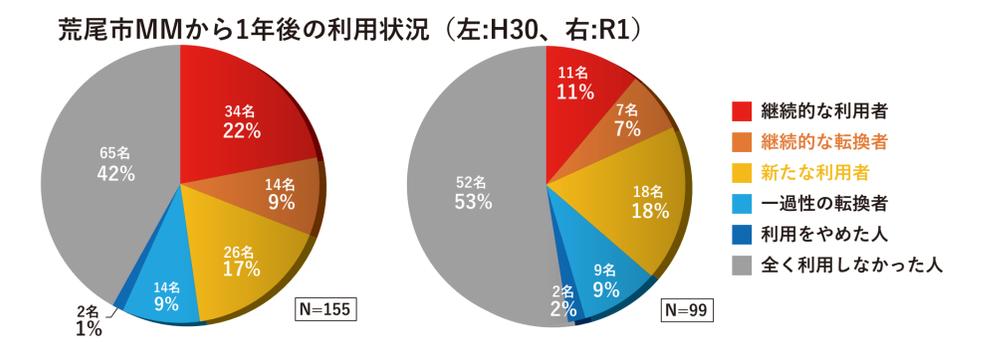
H30:95/201 (47%) R1:82/201 (41%) R2:94/156 (60%)



フィードバック調査では、参加者ごとのCO₂削減量やカロリー消費量の説明と同時に公共交通の利用意向を再調査しました。今後さらに公共交通利用を増やしていいと回答した方が53名 (H30)、41名 (R1)、43名 (R2) です。

STEP 6 事後調査②

H30:155/201 (77%) R1:99/201 (49%) R2:未実施



新たな転換者のSTEP4時点での公共交通利用意向

STEP4の回答	H30	R1
公共交通利用を検討	14名	5人
公共交通利用を非検討もしくは、無回答	12名	13人
合計	26名	18人

MM事業実施後、継続的に公共交通を利用するようになった方が14名 (H30)、7名 (R1) 存在MM実施から約1年が経過したにもかかわらず、新たに公共交通を利用するようになった方が26名 (H30)、18名 (R1) も増加しました。

荒尾市モビリティマネジメントの特徴（参加者一人ひとりに寄り添うMM）

効率化 参加者一人ひとりの番号管理

番号	1年目				2年目		
	STEP1	STEP3	STEP4	STEP5	効果(1年目)	STEP6	効果(2年目)
001	公共交通非利用者	転換意向あり	公共交通を利用した	今後利用を増やしたい	利用促進により、公共交通を利用	公共交通を利用している	継続的な転換者
002	公共交通非利用者	転換意向なし	公共交通を利用した	今後利用を増やしたい	利用促進により、公共交通を利用	公共交通を利用していない	一過性の転換者
003	公共交通非利用者	転換意向なし	利用しなかった	返信なし	利用しなかった方	返信なし	利用しなかった方

参加者一人ひとりの継続的な変化を追う仕組みの確立

効率化 マニュアル作成

参加者一人ひとりで異なる内容の行動プランは、事前調査で把握した外出・帰宅時間帯や居住地、目的地など個人毎で異なる特徴をもとに作成するため、多大な時間を要することが難点でした。

ポイント整理

- 挙げられた特徴ごとの留意点
- データに不備がある場合の対応
- 作成プログラム（VBA）の利用方法等

だれでも行動プランを作成することができる仕組みを確立

ひと手間 一人ひとりで異なる行動プランの提供



複数の公共交通を利用した行動プランの提案

おもいタクシーを利用した行動プランを作成することで、認知度&利用率の向上を図りました。



ひと手間 Face to Faceの対応



市担当者による事業説明の様子



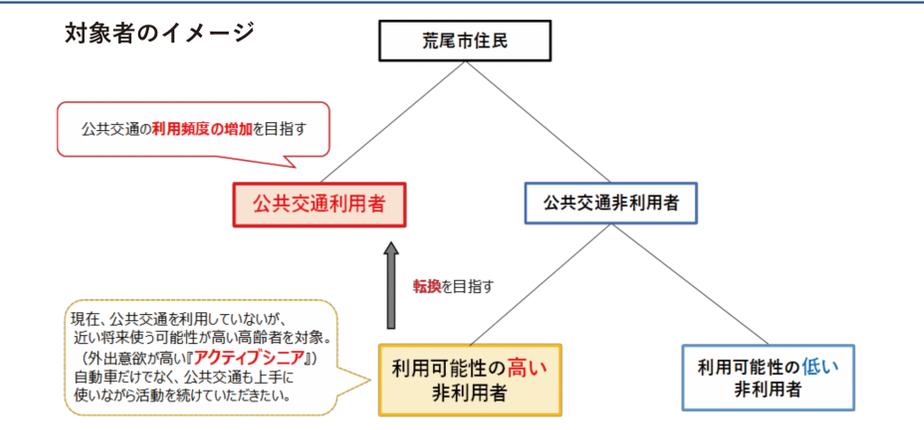
市担当者による資料説明の様子

- 担当者がSTEP1（事業説明・事前調査）とSTEP2（利用促進）の2回にわたり各会場に訪問
- 参加者一人ひとりに対して、事業や利用促進ツールに関する丁寧な説明を実施

継続的な参加協力に寄与
※STEP5（フィードバック調査）時点で4割～6割程度が継続参加

3年間継続の秘訣

秘訣① 協力関係の構築



福祉関係者への協力打診（対象者イメージの共有）&意見交換

福祉関係者は、高齢者が移動に困っていることを把握していたが、現場の声を共有する場がなかった



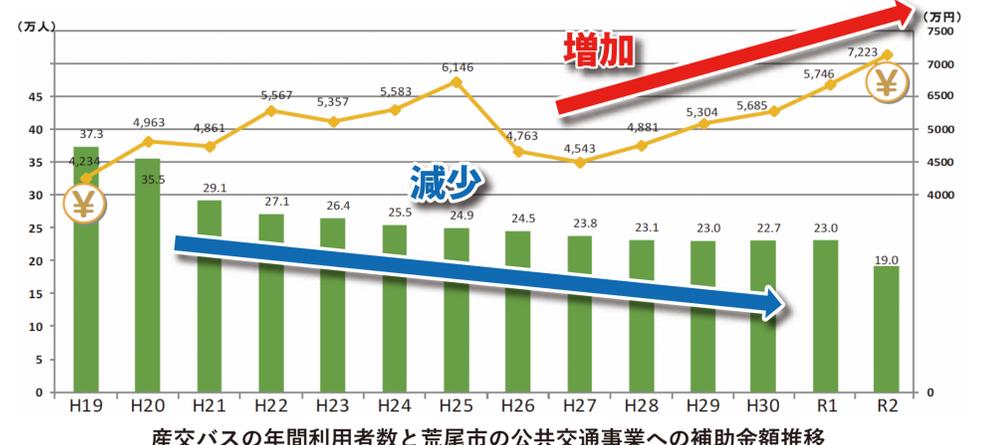
MM事業の実施

MM担当課に福祉部門から担当者が異動してきたことをきっかけに...
MMのキーマンである福祉関係者と初期段階からMM実施の方向性・課題を共有
(H30:荒尾市健康づくり推進員協議会、R1・R2:社会福祉協議会)

協力関係の構築

（一過性の協力関係としないために、定期的な関係者協議を開催）

秘訣① 継続的な体制確保



産交バスの年間利用者数と荒尾市の公共交通事業への補助金額推移

利用者確保に関する取組みの必要性を実感したため、荒尾市地域公共交通網形成計画（H30.3策定）にてMMの実施を決定

利用者数の減少 × 公共交通事業への補助金額の増加 = 荒尾市の財政負担の増加

公共交通事業への補助金額の軽減には、効率的な公共交通サービスの提供だけでは不十分であり、ソフト施策であるMMによる利用者確保が必要という認識を財政部局と共有

継続的な実施体制・予算確保

（高齢者の外出機会が確保されることで、QOLの拡大に寄与するとともに、移動が活発になることによる、地域経済の活性化に寄与）

After 課題と展望

課題

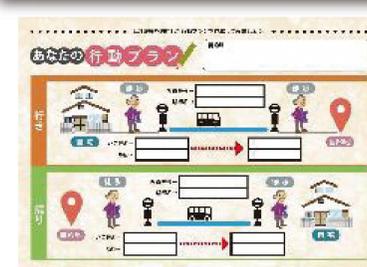
- 参加者等の負担
調査回数が計5回、さらに行動プランは作成に相当の時間を要するとともに、参加者が自ら考える機会が少ない
- 対象活動の選定

展望

- 公共交通利用プランを参加者自らが作成することで調査回数が減少（成果も向上!?）
- 福祉関係者との協力体制を生かして対象者選定（免許返納検討者、民生委員等）
- 医師会と連携することで、公共交通を活用した受診環境の改善
→あらか健康手帳の中に、公共交通の情報を掲載!

グッドデザイン賞2020受賞

- 病気ごとに異なる手帳をひとつに



あらか健康手帳

